# 各地域で市政懇談会を開催しました

11月に各地域で開催した市政懇談会には、延べ168人の市民の皆さんにご出席いただきました。
今年度は各地域ごとにテーマを設け、参加者から意見・質問をいただきながら、市長や市幹部と意見を交わしました。今月は市政懇談会の内容の一部をご紹介します。

11/19　星雲会館

## ●馬瀬地域「過疎対策と地域活性化」

**◆空き家対策は？**

現在、地域や農業の活性、農地の有効活用率の向上等を図る一つの手段として新規就農者の誘導に力を入れており、情報発信をするとともに、家賃補助も行っている。中切地区の教員住宅が空き家になっていることから、農業研修生の住まいとして有効活用できないか協議中である。

**◆駆除した野生獣の肉利用は？**

個体数調整した野生獣の肉の有効利用についての情報を収集するとともに、猟友会などと視察にも出かけている。しかし、そのほとんどが経営として成り立っておらず、また食の安心・安全に対し敏感になっている昨今において、それを積極的に推進する考えを、現時点では持っていない。

**◆馬瀬に住むことの特権を**

合併前は出産お祝い金があったが、合併後は下呂市全体でのサービスとなっており、馬瀬地域限定でのサービスはできない。地域のことは各地域で考えていく必要がある。「美しい村連合」に加盟する馬瀬地域特有の魅力発信のために、平成26年度には地域おこし協力隊として、都会から馬瀬に移住してもらい情報発信を行う事業を計画している。

## ●小坂地域「御嶽山を中心としたまちづくり」

**◆ジオパーク構想への支援は？**

準備委員会から設立委員会を設置する方向で、まずは地域の力で組織を立ち上げていただき、行政とともにお互いに頑張っていきたいと考えている。

**◆御嶽マラソンの復活は？**

現時点では再開の予定はない。馬瀬地区では地域住民の力でマラソンを開催させており、県外からの参加者も多数あっ

た。どうしたら復活できるか、地域の理解が必要と考える。

**◆小坂の滝めぐりの知名度は？**

誘客活動は引き続き行っており、NPOの皆さんのおかげで知名度も上がってきている。東京オリンピックが決まり、山岳観光の盛んなこの時期にこのチャンスを生かしたい。

## ●萩原地域
## 「合併10周年を迎えて…萩原の課題とこれからのまちづくり」

**◆若い人たちが元気になる下呂市は？**

下呂では若い人が働ける場所が少ない。若い人が安心して働ける雇用の確保の努力をしたい。子育てでは、中学生までの医療費無料を行っているが、今後も継続していく。

**◆山間地での農業は？**

水田を守ることは環境を守る原点と考える。下呂市にあった施策をとり、活用して元気な下呂市になるよう、市でバックアップしていきたい。

**◆道路アクセスは？**

国道41号小坂久々野トンネルの開通により、大雨や積雪時も安全に走行できるようになった。しかし、まだ雨量規制の区間もある。国道257号とともに、関係自治体とも連携をとりながら要望を続けていきたい。

## ●下呂地域
## 「地域活性化と次世代を担う後継者づくり」

**◆商店街の活性化は？**

大型店の進出により、下呂市の商店街も厳しくなってきた。地域を融和するために、下呂市に特化した施策ができないかと検討している。観光客を地域の商店街へ案内する工夫なども考えている。

**◆下呂温泉病院の移転開院に伴う森8号線の安全対策は？**

沿線の立木を伐採して日当たりを良くすることや、路面にヒーターを入れて融雪するなどの対策を行っていく。さらに、部分的な改良についても検討したい。

**◆「若宮大橋」の建設を**

都市計画街路　森湯之島線の一部として昭和50年4月に街路指定されているが、財政的な問題等で具体的な計画には至っていない。これとは別に県道下呂小坂線の雨量規制区間、線形不良区間の改良を県へ要望していきたい。

## ●金山地域
## 「金山地域のまちづくり」

**◆まちづくりの今後は？**

人口減少、市の職員減少のなか、行政がすべてを負担していくことはできない。地域のもっとも身近なところで見守り、支え合っていくことが大切。まちづくりが中心となって地域の活動を支えてほしいので、市民の皆さんの意識向上を図りながらすすめていきたい。

**◆まちづくりへの市職員の参加は？**

職員には市の職員である前に地域の住民であるという意識を持つよう言っている。組織の見直しの中で、人事異動においても各振興事務所に地域を支える職員の配置を検討していく。

11/15　馬瀬中央公民館

**◆病院ボランティアは？**

まちづくり協議会で病院周辺の清掃やガーゼ折りの作業などを行っていただき、大変ありがたい。まだお手伝いしていただきたいこともあるので、市民病院として地域の皆さんによって支えていただきたい。

【経営管理部・秘書広報課】
☎24・2222（内線261）

11/18　きこりセンター